

令和7年 稲作情報 vol.4

※この資料は、令和7年5月16日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

※この資料は、県ホームページでも公開しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyohou.html>



南会津農林事務所農業振興普及部	Tel 0241-62-5262
南郷普及所	Tel 0241-72-2243
J A会津よつば田島営農経済センター	Tel 0241-63-1172
南郷営農経済センター	Tel 0241-72-2554
下郷資材センター	Tel 0241-69-1088
只見資材センター	Tel 0241-84-2214

- 適切な水管理で有効茎数を確保しましょう。
- 草種に応じた除草剤を選択し、適期散布を行いましょう。
- いもち病対策を実施しましょう。

<作業スケジュール（参考）>

	5月	6月			7月		
	下	上	中	下	上	中	下
田植え	田植え	今回の内容					
雑草防除	初期剤・初中期一発剤の散布						
	Vol.3参照	中期剤の散布					
水管理		浅水管理			中干し	間断かんがい	

※ 作柄判定ほ（田島・ひとめぼれ）の田植期平年値（5/24）から例示

1 気象情報 1か月予報（5/31～6/30） 仙台管区气象台発表（5/29）

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年より多い確率40%です。日照時間は、平年より少ない確率40%です。

◎ 農作業中の熱中症に注意！

県内では毎年5月上旬から農作業中の熱中症が発生しています。熱中症を正しく理解し、予防に努めてください。

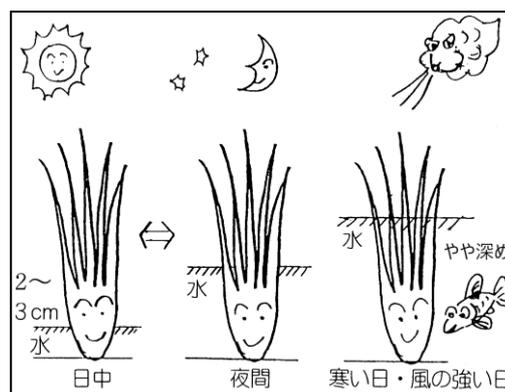


熱中症対策について（県HP）

2 水管理

(1) 分げつ期（活着後～6月下旬）

- ・ 活着後は浅水管理（水深2～3cm）で日中の水温を上げやすくし、分げつの発生を促します。
- ・ 寒い日や風の強い日はやや深水とします。
- ・ ガスわきがおきると根が傷み、生育不良が生じます。ガスが発生したら直ちに落水し、2～3日程度干しましょう。



(2) 有効分げつ決定期～幼穂形成期前（7月上旬）

- ・ 必要茎数を確保したら中干しを実施しましょう（コシヒカリ 20 本/株、ひとめぼれ 25 本/株）。田面に深さ 1 cm ほどの亀裂が入る程度（足跡がつく程度）を目安に行い、遅くとも幼穂形成期までには終えましょう。
- ・ 中干しを行うことでムダな分げつが抑えられるとともに根張りが良くなることで、倒れにくくなります。また土が硬くなることで、収穫時の作業性の向上にもつながります。
- ・ 生ワラ施用田や粘質土壌、生育過剰田では強めに、地力のない田や茎数が少ない田、葉色が薄い田、砂質土壌では軽く干す程度に実施しましょう。

3 雑草対策

(1) 藻類・表層剥離の対策について

- ・ 移植後に藻類や表層剥離が多発生すると、水温や地温の低下、苗のなぎ倒し、肥料養分の競合により分げつを抑制してしまふことがあります。
- ・ 対策1：落水して軽く田面を干す。
- ・ 対策2：藻類(アオミドロ)や表層剥離に登録のある除草剤を散布。

薬剤名	適用雑草	使用時期	施用量 (/10a)	使用方法	本剤の使用回数
モゲトン粒剤	藻類(アオミドロ・アミミドロ)	ワケザル類、藻類の発生始～発生盛期 但し、収穫 45 日前まで	2～3 kg	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内
		藻類・表層はく離の発生時 但し、収穫 45 日前まで	2 kg	水口施用	
	藻類による表層はく離	藻類・表層はく離の発生時 但し、収穫 45 日前まで	2 kg	水口施用	
			1～2 kg	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	

(2) 雑草防除について

- ・ 取りこぼしや後発生した雑草の種類に応じて中期剤を散布しましょう（次ページ表参照）。ノビエの葉齢を確認し、防除適期を逃さないようにしましょう。
- ・ 畦畔等の雑草は斑点米カメムシ類の温床となるため、草刈りは徹底して行いましょう。なお出穂間際の草刈りはカメムシをほ場に追い込むので、草刈りは出穂 10 日前までに完了させましょう。
- ・ 農薬散布後 7 日間は止水管理とし、落水や掛け流しを行わないようにしましょう。

○ 中期剤の例

薬剤名	適用雑草	使用時期	施用量 (/10a)	使用方法	本剤の 使用回数
ヒエクリーン 1キロ粒剤	ノビエ	移植後 15 日～ノビエ4 葉期 但し、収穫 45 日前まで	1 kg	湛水散布又は無人 ヘリコプターによる散布	1 回
バイスコープ 1キロ粒剤	一年生雑草(ノビエを除く)、ウリカ モトガカ、クログワイ、 シズイ、ハラモトガカ、 ホタルイ、ミズガヤツリ	移植後 14～60 日 ただし、収穫 45 日前まで	1 kg	湛水散布、ごく浅く 湛水して散布又は 無人航空機による 散布	1 回
ツイゲキ 豆つぶ 250	一年生雑草、多 年生広葉雑草、 アオイトロ・藻類に よる表層はく離	移植後 14 日(稲 5 葉期以降) ～ノビエ4 葉期 但し、収穫 60 日前まで	250g	湛水散布又は無人 航空機による散布	1 回

4 いもち病対策

- ・ いもち病は梅雨時期の低温及び多雨、日照不足により発生しやすくなります。葉いもちの発生を防ぐため、防除を行いましょ。葉いもちの発生を確認したら、拡大を防ぐため、速やかに防除しましょ。
- ・ いもち病の発生源となるため、置き苗が残っている場合は速やかに廃棄しましょ。
- ・ 箱処理剤を施用していない場合や昨年にいもち病の発生が見られたほ場は、発生する危険性が高いことから、本田での防除を必ず行いましょ。

薬剤名	使用時期	施用量 (/10a)	使用 方法	本剤の 使用回数
フジワン粒剤	葉いもちに対しては初発 7～10 日前、 穂いもちに対しては出穂 10～30 日前 但し、収穫 30 日前まで	3～5 kg	湛水散布	2 回以内
コラトップ粒剤 5	葉いもちに対しては初発 10 日前～初発時、 穂いもちに対しては出穂 30 日前～5 日前まで	3～4 kg	散布	2 回以内

※年次による変動はありますが、福島県病虫害防除所の葉いもちの感染好適条件出現状況(BLASTAM)による南会津地方の葉いもちの初発は7月10日頃からです。

(2) いもち病の予測

福島県病虫害防除所 HP にて発生予察情報を公開しています。
日々の対策にご活用ください。



発生予察情報
(防除所HP)

次回発行は6月下旬頃(斑点米カメムシ類・病害対策について)を予定